

世界のエネルギー起源 CO₂ 排出量

国連環境計画 (UNEP) が公表した「排出ギャップ報告書 2025(EGR2025)」によると、2024年の世界の温室効果ガス排出量は前年より2.3%増え、1990年から2024年までの34年間の排出量 (CO₂換算) は378億トンから、過去最多の577億トンへと、加速度的に増加していると報告している。

表-1に、国際エネルギー機関 (IEA) 「Greenhouse Gas Emissions from Energy」2025 EDITIONを基に、環境省が作成した世界のエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2023年) を国別に示した。全体の排出量347億トンのうち、中国が32.1%、アメリカが12.7%、インドが8.0%を占め、この上位3カ国で世界の排出量の約50%強を占める。また、G20加盟国の排出量は全世界排出量の約80%、279億トンを占めている。1990年からの2023年の排出量の増加をみると、かつては開発途上国であった中国やインドなどの排出量の増加が目立つ。

我が国はロシアに次いで第5位で、排出量は9.3億トン、世界に占める割合は2.7%となっている。

表-2に、主な国別の年間の一人当たりのエネルギー起源 CO₂ 排出量 (トン/人) を示した。カタール、アラブ首長国連邦、サウジアラビアなど中東諸国が突出している。排出量上位の中国は7.89、アメリカ13.09、インド1.92となっている。我が国は7.52で、中国とほぼ同じレベルで、世界平均の4.30を上回っている。開発途上国、特に後発開発途上国 (LDCs) に至っては、日本の約9分の1である0.89である。

35年までの新たな排出削減目標を掲げた国はわずか7カ国に止まるが、報告書は「地球は深刻な気候リスクと損害の拡大に向かっており、G20諸国の行動とリーダーシップが鍵を握る」と指摘している。

(K.O)

表-1 世界のエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2023年)

国名	A(億トン)	B(%)	国名	A(億トン)	B(%)	国名	A(億トン)	B(%)	国名	A(億トン)	B(%)
中国	111.3	32.1	イラン	7.3	2.1	カナダ	5.2	1.5	オーストラリア	3.6	1.0
アメリカ	44.1	12.7	インドネシア	6.6	1.9	メキシコ	4.4	1.3	ベトナム	2.9	0.8
インド	27.6	8.0	ドイツ	5.5	1.6	ブラジル	4.1	1.2	イギリス	2.9	0.8
ロシア	16.9	4.9	韓国	5.5	1.6	トルコ	3.9	1.1	イタリア	2.8	0.8
日本	9.3	2.7	サウジアラビア	5.3	1.5	南アフリカ	3.6	1.1	フランス	2.6	0.8

注) Aはエネルギー起源 CO₂ 排出量 Bは世界の排出量に占める割合

表-2 主な国別一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2023年)

国名	トン/人	国名	トン/人	国名	トン/人	国名	トン/人
カタール	35.68	カナダ	13.05	日本	7.52	イギリス	4.22
アラブ首長国連邦	17.58	ロシア	11.79	ドイツ	6.50	フランス	3.84
サウジアラビア	15.86	韓国	10.65	南アフリカ	5.77	アルゼンチン	3.59
オーストラリア	13.33	イラン	8.03	イタリア	4.82	メキシコ	3.37
アメリカ	13.09	中国	7.89	トルコ	4.6	ベトナム	2.92